

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770700179		
法人名	医療法人 上善会		
事業所名	認知症対応型生活介護 グループホーム 星のふる里		
所在地	沖縄県石垣市新川2127番地の2		
自己評価作成日	令和元年	10月	13日
評価結果市町村受理日	令和2年1月16日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4770700179-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和元年	11月	6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人内にて、病院、通所、老健施設が併設。外部事業所と多くの設備が整い、連携して地域医療・介護ケアに努めています。グループホームでは、全職員が介護福祉士の資格を持ち専門的な介護ケアを利用者へ提供できる体制を整えています。勉強会・講習会など、法人内外での取り組みも盛んで、職員の知識技術の向上を図る機会が多くあります。住み慣れた地域に暮らし、家族や親戚の訪問。秋祭り・敬老会・家族交流会・ボランティア公演、小中学生の福祉・職場体験と地域交流も盛んに行っている。食事など、人気メニュー・行事・郷土料理を取り入れ、利用者に大変喜ばれています。理念にもある、家庭的で馴染みのある環境を作り、地域との関わりを大切にして、安心して生活が送れるよう支援し、意思や人格を尊重し、出来る事への自立支援を行っていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から15年目となる医療法人を母体とする本施設は、海を見渡せる郊外の高台にあり、施設内には病院を始め、各種介護保険サービス事業所等がある。敷地内には、花壇や30頭近くの山羊を放牧しており、利用者は自然豊かな環境の中で、散歩や水やり等を楽しんでいる。法人との医療連携や系列事業所との合同災害訓練等情報交換、交流が行われている。法人が作成した就業環境の整備が充実しており、就業規則で職員の身分の保障は基より、希望休日の確保、休憩室の整備、福利厚生等が図られている。研修計画や勉強会により、職員の資質向上に努め、職員全員が有資格者である。自治会や民生委員の方から情報を得て、ボランティアによる琉球舞踊の催しや、イベントに参加し地域との交流を図っている。職員が交替で3食共調理し、毎週火曜日は人気メニューの日となっていて、利用者からのリクエストで月1~2回鮮魚を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲示し、毎朝の申し送りで勤務者全員で唱和確認し、地域との関わりを大切に、安心して生活を送れるように支援している。	「家庭的でなじみのある環境を作り地域との関わりを大切に安心して生活を送れる」の理念の下、家族やボランティアと協力関係を築き、誕生会や食事介助等訪れやすい環境を整え、毎日家族や友人等の来訪者がいる。理念は玄関と事務所内に掲示し、毎朝唱和している。月1回ミーティング時に職員間で確認し、ケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員と一緒に近くのスーパーに買い出しや、敬老会・秋祭り・ボランティア公演など、地域の方達と交流を図っている。	自治会に加入し、自治会長や民生委員から行事案内や情報を得ている。舞踊研究所のメンバー等がボランティア活動で踊りを披露している。近隣の保育園児が訪れ、利用者と園児と一緒に、玉入れやくじ引き等を行い、交流を図っている。利用者は、食材の買い出しでマーケットへ職員と出掛け、店員と顔見知りの関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、中学生・高校生などの福祉・職場体験を受け入れを通し、身近に接することで認知症の方を受け入れ、少しでも理解する場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回、2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用状況や現状を報告し、行政や地域の方から意見・アドバイスを頂き、職員と話し合いを行っている。	運営推進会議は年6回開催され、利用者・家族・民生委員・行政が参加しているが、知見者の参加がない。会議では活動報告や事故報告等を行っている。民生委員より、地域の老人クラブや子ども会等の行事案内等の報告がある。議事録や外部評価結果は、ファイリングして玄関近くに設置し公表している。	運営推進会議の構成員として、知見者を選出し、参加に向けた取組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、行政からの意見や助言を頂いたり、必要な時には連絡、確認を行っている。	市担当職員とは、運営推進会議の中でインシデントやアクシデント報告について助言を受けている。研修や行事等の情報については、郵送や電話で連絡を受け協力関係を築いている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会の参加やミーティングでの話し合いを行い、日々意識付けをしている。行動で制限しないよう、見守り・付き添い安全確保を行っている。	身体拘束に関するマニュアルや身体的拘束廃止の為の行動指針を作成している。法人の身体拘束禁止の研修会に参加した職員が研修報告会を実施し、勉強会を通して情報の共有を図っている。法人の身体拘束等適正化委員会の3か月毎の会議に参加し、運営推進会議で報告を行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などに参加し、普段から意識付けを行っている。利用者とのコミュニケーションを図り、虐待を起こさせない環境作り、職員同士で情報共有し、話し合いを行っている。	高齢者虐待防止法・権利擁護等についての対応マニュアルを作成し、法人全体で行われる研修会に参加し、勉強会で、自己点検シートや事例検討会を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持てなかった。成年後見人制度を利用されている利用者があるので、勉強会や話し合いを持ち、利用者が安心して暮らせるように支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用する際、契約・重要事項に関する説明を行っている。説明後は、家族に不明な点・不安・疑問をお聞きし、納得されたうえで契約されている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見は、日常会話等で汲み取り、家族には面会時や運営推進会議等で要望を伺うようにしている。玄関先に意見箱の設置をしている。	利用者からは、日々の会話の中で要望を聞き、家族とは面会時や運営推進会議の中で、意見を聞く機会を設けている。家族から、行事の際に撮影した利用者の写真を頂けないかとの要望があり、家族がゆっくり好きなだけ選定出来るようUSBを提供している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務でのやり取り、意見、相談などを聞き入れ、毎月のフロア会に提示し話し合いを行っている。その意見を基に運営を行っている。	申し送り時や月1回のミーティング時に職員の意見や要望を管理者が聞き、法人運営会議で職員の意見等を提案している。職員よりオムツがなくなった場合に困っているとの相談があり、家族と話し合い業者から一括購入することで在庫切れの不安がなくなった。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人努力目標・勤務考課表を取り入れ、目標に努力、挑戦しているか。年に数回、上司・本人と目標や勤務等にて、個人面談を実施し、相談、助言を行っている。(年に2回以上)職場の健康診断を行い健康を把握している。	法人が作成した就業規則が整備され、給与や休暇等の労働条件が規定されている。各種資格手当や外部研修の参加を支援している。資格取得を推奨し、勤務体制を整備して対応している。年2回管理者が面談を行い人事考課が行なわれ、勤務年数により海外への慰安旅行でリフレッシュを図っている。職員は健康診断を年2回以上行っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外では、勉強会や外部から講師を呼んで勉強会もあり、外部研修も参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元同業者とは、主に電話連絡での情報共有を行っているが、職員が同業者と交流する機会がない為、交流機会を設けて、サービスの質の向上を図る為の相談等で連携をして行きたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い、家族と共に、その利用者にあつたサービスの提供に努めています。利用者と信頼関係を築くには、寄り添い、日常生活でのやり取りを感じ聞き、安心して過ごせる環境作りを行う。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の気持ち、要望等を傾聴し理解する。面会や電話連絡でのコミュニケーションを図り、良好な関係作りを図る。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にサービス事業所と共に連携を図り、情報収集し、利用時に家族の意向を聞きサービスに生かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士、自分で出来るのは自分で。洗濯物を一緒に干したり、たたんだり。買い物行ったり。行動・会話通じて関係を築く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会を促したりと日頃から連絡を取り合い、コミュニケーションを図り、行事等に参加、協力して頂くこともあり、家族と職員が利用者を支えていく関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人の面会。行事等での外出。これまでの付き合いを大切に、関係が途切れないように支援している。	利用者は、親戚や友人等と一緒に選挙の投票や法事に出掛けたり、理容室や外食に出掛けている。お正月やお盆に、一時帰宅出来るよう家族と調整し支援に取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士の席の配慮や、職員が間に入り孤立しないように、日常生活を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転床された方には、面会し状態や状況確認し、退去後も、これまでの関係性を大切にしながら必要に応じて、相談・助言を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での本人の思いを聞きとり、困難な場合は、家族と話し合いをしを聞き取り、本人にとって必要支援を確認する。	利用者の思いは日頃の会話の中や表情等で把握に努めると共に、生活歴や家族等から情報収集を行っている。担当職員は衣類の買い足しや、プロ野球球団のキャンプ見学に利用者と一緒に出掛けている。申し送り時に職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報収集や、入居時に本人や家族から聞き取り。新しく得た情報を、再度職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、利用者の様子を観察し、職員との情報共有し、介護日誌、カルテに記載している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとのモニタリングを行い。本人・家族の意向を聞きながら話し合いを持ち、支援方法を考え、見直しを行い介護計画を作成している。	サービス担当者会議には、利用者と家族、担当職員が参加している。立位が安定してきたのでシャワーキャリーからシャワーチェアに変更が可能ではとの担当職員からの意見があり、確認しプランを変更している。介護計画書は短期目標を3か月、長期目標を1年とし、状態に応じて計画を見直し、モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化等を記録し、申し送り情報共有する。家族と担当者が話し合い、プランの見直しを行いながら、介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	フロア会等にて支援の方法を話し合う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア公演、ホームでの行事、運営推進会議など参加される方に、情報や資源を教えられているしながら、活用できることは相談している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が併設されている為、いつでも受診できる体制や、医療面にも相談できる。	母体の併設する医療機関で利用者全員が希望により受診が行われている。併設されていない眼科、皮膚科等の他科受診は、家族の付き添いの下で予約受診されている。受診後は家族から報告を受け情報を共有している。受診後の診療情報は家族からの口頭での報告。必要に応じて訪問看護師が健康管理にあたっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週8時間配置あり。朝の訪問があり、申し送りに参加し利用者の状態の把握しており、バイタルチェック・薬の管理を行っている。24時間、オンコール体制で緊急時・夜間でも対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、医療機関との連携を図り、主治医、担当看護師、相談員などと話し合い、情報収集し、病状を把握し対応できるようになっている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、本人、家族の希望を確認し事業所で対応していることを説明している。重度化などその際は、もう一度家族と話し合い、医療機関への希望がある場合は連携し支援する。	入居時に本人、家族と重症化した場合の意向を確認し終末期の指針を作成し同意を得て、同意書も取っている。実際に重症化した場合は再度家族と話し合い医療機関への連携を行っている。看取りについては利用者の状態変化に伴い管理者は職員の意思を確認し、看取りが行えるか検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故に対するマニュアルを作成し、看護師や医療機関への連携を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	資格を持った防火管理者を配置し、年に2回消防訓練を行っている。災害対策では、地域との協力体制はとれていないので、民生委員の方などを通し協力体制を築いていきたい。	年2回消防署指導の下、昼夜を想定した避難訓練を実施している。法人施設からの応援もある。隣接した住人が少ないため地域住民の参加は現在交渉中。(自治会等)備蓄に関しては事業所内では倉庫が確保できないため事業所敷地内の倉庫に備蓄を3日以上備蓄。オムツやカセットコンロ等の備品も用意している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬い。言葉遣い、態度には気を付け、職員同士注意して接している。プライバシーにも配慮し対応している。	利用者個々を尊重し言葉かけ、対応を実践している。個々の尊厳を保護するためにはどのように対応するか個人情報保護についての勉強会を行っている。3名の方が赤外線センサーを使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活をする中で、コミュニケーションを図り、本人の思いや希望を引き出し、確認し、支援できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れ・取り組みはあるが、本人の体調や様子を見ながら、本人のペースに合わせ、過ごしやすいように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは、本人に確認しながら支援している。意思表示できない方は、職員が支援し清潔保持に努めている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事、季節に合わせた食事。普段から食べなれた郷土料理。週1回の人気メニュー。利用者からの聞き取りにて提供している。おやつ会など、利用者が分担し一緒に作り、楽しんでいる手作りおやつ。	食事は3食手作りで利用者に提供している。島の食材を使用している。利用者のその日の状態を確認しお膳を拭いたり是一緒にしている。職員は管理者、ケアマネージャーが利用者と同じものを一緒に食事している。その他の職員はお弁当や帰宅し昼食を取っている。食事時には食堂に八重山民謡が流れており和やかな雰囲気です。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は、毎食チェックし、体調や体格に合わせ食事を提供している。水分や食事量が少ない方には工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員付き添い自己に行っている。できない方などは、介助にて清潔保持に努めている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、誘導・声かけを行っている。また、利用者の表情・行動を観察し、トイレでの排泄の自立に向けて支援している。	排泄チェック表を利用し排泄パターンを把握し支援を行っている。排泄の訴えない利用者には表情や動作でトイレ誘導している。夜間は全員オムツを使用している。トイレはドアとカーテンが二重に設置されプライバシー保護に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促し、体操・レクでの体を動かし、食事メニューの工夫。排便リズムを作る為、トイレ誘導を行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間は決まっているが、体調や気分によっては、難しい時がある為、変更し柔軟に対応している。	利用者の入浴日は曜日を決めているが個々に合わせて時間の調整は行っている。浴室にはドア、カーテンの設置されている。扇風機やヒーターが設置されている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠や安息時間は、個々により違うので、生活習慣、体調、本人の気分次第にて対応し休んで頂いている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱を用意し、職員が薬の確認ができるように一覧表のファイルを設置している。利用者に変化があれば、看護師と相談し医療機関へ報告している。	飲み忘れ等の誤薬事故があった場合の再発防止についての報告や検討会を行い訪問看護師と一緒にマニュアルの改訂を行った。訪問看護師との連携もできている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、本人ができる範囲で役割を持ち、職員見守りにて行っている。ドライブ・レクと楽しみを支援している。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、散歩、買い物など、利用者の希望に添えながら行っている。	個々の買い物の支援、食材の買い出し等は地元の市場(ゆらていく市場)へ出掛け、山羊の様子を見に散歩に出かけたりしている。病院受診の帰りに家族と親戚の家を訪れたり食事をしたりしている。天気の良いときは敷地内の園庭で過ごしたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人より希望があれば、一緒に買い物に出かけている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があれば、いつでも対応。電話の取次ぎも自由に行っている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、心地良くつろいでもらえるように工夫している。	玄関先には敬老会の写真が面会者が目に付く高さで張られている。和やかな雰囲気がある。食堂には台所から食事を作っている音やにおいが漂っている。大きな窓がありそこから海が見渡せる心地よい。大きなソファが置かれていて座りながら流れている八重山民謡を利用者が一緒に歌っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、椅子・ソファを、色々な場所に配置し、好きな場所に座って頂き、他の利用者や職員と談笑したり、思い思いに過ごせる様に工夫している。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を居室で使用したり、家族などの写真を飾ったり、リラックスして過ごせる様に工夫している。	事業所で準備したテーブル、ベット、タンス、鏡台が設置され自宅で使用していたソファ、自分の好きな工芸品や写真などが配置されている。起き上がりが困難な利用者には介護用ベットが用意されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを配置したり、障害物を除き、見守りにて安全に移動できるようにしたり、表記を行っている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	・ホームでの地域交流は盛んだが、住宅地から離れている為、入居者達が地域に赴き交流することが少ない。	・入居者達と、地域に赴き地域住民と交流を図る。	・近くの公民館に赴き児童館の子供達と交流を図る。 ・地域の祭りや行事に参加する。	4ヶ月
2	4	・運営推進会議を実施する際、毎回、利用者・家族・民生委員・地域住民の参加はあるが、知見者の参加がない。	・運営推進会議の構成員として、地権者を選出したい。	・行政や民生委員等に声掛けを行う。 ・同じ事業所との交流を図り、会議の参加を要請する。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。